

D-4 幼稚園・保育所児童の食事に関する研究(そのI 一 昼食について)  
聖和女大教育 石垣恵美子

目的 幼稚園・保育所児童の昼食の実態を調査し、摂取食品の傾向を、①給食・弁当・家庭食別の比較、②地域差、③体格差、④両親の学歴差、⑤年代差、等の見地から検討して、幼児教育施設児童の昼食のあり方を考察するのを目的とした。

方法 昭和46年2月1日より20日間、①都会住宅地の2カ所のK・O幼稚園の母親がアンケート表に昼食の摂取食品を記入。②辺地のT幼稚園児の昼食の摂取食品を担任教師が個人別に記入。③都会住宅地のI保育所の給食を分類。以上①②③を目的項目別に検討し、更に④15年前のS保育所給食記録と比較考察した。

結果 I 摂取食品の教と種類は個人差がはげしいが、給食の場合が平均して最も多く、弁当の場合は片寄りやすい。II 都会の方が摂取食品の教と種類が多く、田舎は一般的に少ないが、特に野菜の取り方が極端に少ない。但し同時に量的検討が必要である。III 都会の方が概して体格がよい。IV 両親の学歴が高い程、摂取食品の教と種類が多く、特に肉類と野菜類を多く食べさせている。V 年代的には15年前の給食献立はむしろよく整っており、果物・卵以外は食品の教・種類の取合わせに苦心のあとがうかがえる。むしろ現代の片寄った弁当・家庭食の方に問題が多い。以上の見地よりみた場合、幼稚園児にも保育所と同様、給食を与えることがのぞましいし、母親に対しても食品に対する正しい知識を与えることが大切である。但しこれは、朝・夕食や固食との関連、子供の情緒面、更に幼稚園での生活指導との関係に於いてとらえていかなければならない問題である。